

令和6年度 第2回

北多摩西部健康危機管理対策協議会

健康危機管理（感染症）訓練等部会 会議録

1 開催日時

令和7年3月12日（水曜日） 午後1時30分から2時25分

2 会場

東京都多摩立川保健所 講堂での集合とオンラインのハイブリッド方式

3 会議次第

(1) 議事

ア 令和6年度感染症対応実践型訓練について

(ア) 実践型訓練状況まとめについて

(イ) 実践型訓練検証について

イ 健康危機管理対処計画の改定（案）について

ウ 令和7年度感染症対応実践型訓練（案）について

エ 健康危機管理（感染症）訓練等部会等の予定について

(2) その他

4 委員名簿

12名（令和7年3月12日現在）

（敬称略）

国家公務員共済組合連合会 立川病院 感染制御部室長	竹内美枝
独立行政法人 国立病院機構災害医療センター 副看護師長	浅利菜穂子
社会医療法人社団健生会 立川相互病院 感染管理認定看護師	楨野順子
社会医療法人財団大和会 武蔵村山病院 感染管理室副室長	山本真吾
一般社団法人立川市医師会 小児保健担当理事	平野静香
立川市保健医療部健康推進課長	鈴木央子
昭島市保健福祉部健康課長	原田千尋
国分寺市健康部健康推進課長	占部英一
国立市健康福祉部保健センター担当課長	加藤尚子
東大和市健幸いきいき部健康推進課長兼新興感染症対策等担当係長事務取扱	幸村有紀
武蔵村山市健康福祉部健康推進課長	持田文吾
東京都多摩立川保健所長	長嶺路子

5 欠席委員

鈴木委員、原田委員、占部委員及び幸村委員

令和6年度 第2回 北多摩西部健康危機管理対策協議会
健康危機管理（感染症）訓練等部会

令和7年3月12日

開会：午後1時30分

【角田市町村連携課長】 お待たせいたしました。それでは定刻になりましたので、ただいまから、令和6年度第2回北多摩西部健康危機管理対策協議会健康危機管理（感染症）訓練等部会を開会いたします。

皆様には年度末のお忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、昨年11月に実施しました感染症対応実践型訓練につきまして、委員の皆様には多大なご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

議事に入るまで進行を務めさせていただきます、市町村連携課長の角田と申します。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、最初に本日の資料の確認をお願いいたします。

本日の会議資料につきましては、お配りしております次第の裏面に記載しているとおり、資料1から資料9となっております。

不足等ございましたら途中でも結構ですので、事務局までお申しつけください。

それでは開会に当たりまして、多摩立川保健所を代表して所長の長嶺よりご挨拶申し上げます。

【長嶺保健所長】 皆様、こんにちは、多摩立川保健所長の長嶺と申します。

本日もどうぞよろしくお願いたします。

さて、今年度、健康危機管理対策協議会の下に存在する形で、感染症を対象とした健康危機に関する訓練、及び多摩立川保健所健康危機対処計画等に関する専門的事項をご討議いただくため、こちらの健康危機管理（感染症）訓練等部会を設置いたしました。

昨年9月の第1回部会にてご討議をいただきまして、11月には、令和6年度感染症対応実践型訓練を実施することができました。

今日の会議の趣旨でございますが、昨年11月14日に実施をいたしました感染症対応実践型訓練の振り返り及び効果の検証を行いまして、当保健所健康危機対処計画感染症編の見直しを図るとともに、来年度の感染症対応実践型訓練の計画と実施につなげていくことを目的としてございます。

今年度行われた訓練の続きを来年度もまた充実させていきたいと思っておりますので、そういったところのご意見等賜ればと思っております。

本日、皆様方からいただいたご意見を踏まえまして、多摩立川保健所の健康危機管理対策の充実を図り、引き続きまして、地域における感染症対策の中核的機関として、さらに感染症の発生、予防等に推進していきたいと思っております。本当に今年度ありがとうございました。そして来年度のために、本日、あと少しお付き合い願えれば

と思います。短い時間ではございますが、充実した意見交換をしていただければと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【角田市町村連携課長】 続きまして、委員の出欠についてご報告いたします。

委員名簿は資料1で配付しております。

本日、出席でご回答いただいております武蔵村山病院の山本委員につきましては、到着が遅れている状況です。

欠席につきましては、本日は立川市の鈴木委員、昭島市の原田委員、国分寺市の占部委員、東大和市の幸村委員は、市議会対応等のため欠席のご連絡をいただいております。

また、国立市の加藤委員はWEB参加となっております。

続きまして、本日出席する保健所の幹部職員を紹介いたします。

稲葉副所長でございます。

【稲葉副所長】 よろしくお願いいいたします。

【角田市町村連携課長】 伊藤生活環境安全課長でございます。

【伊藤生活環境安全課長】 伊藤でございます。よろしくお願いいいたします。

【角田市町村連携課長】 柳澤歯科保健担当課長でございます。

【柳澤歯科保健担当課長】 柳澤でございます。よろしくお願いいいたします。

【角田市町村連携課長】 山科地域保健推進担当課長でございます。

【山科地域保健推進担当課長】 山科です。よろしくお願いいいたします。

【角田市町村連携課長】 なお、本日は、土方保健対策課長は業務の都合で欠席とさせていただきます。

それでは、今後の議事の進行につきましては部会長の長嶺所長にお願いいいたします。

【長嶺部会長】 それでは改めまして、本部会の部会長としての進行役を務めさせていただきます。長嶺でございます。よろしくお願いいいたします。

早速ですが、次第の3議事に入ります。

(1) 令和6年度感染症対応実践型訓練について。ア、実践型訓練状況まとめについて、事務局から説明をお願いいたします。

【角田市町村連携課長】 角田から説明いたします。

資料4をご覧ください。

スライド番号をめぐっていただきまして、スライドの1ですが、こちらは訓練概要となっておりますので、説明は省略させていただきます。

スライド2をご覧ください。

訓練参加者ですが、29名、それから見学者は24名でした。

スライド3、4ですが、こちらにも訓練時の資料で皆さんご覧になられていますので、説明は省略させていただきます。

スライドの5をご覧ください。

前半の管内感染症発生前の課題検討における各班の発表の内容です。

赤字につきましては、訓練で見えた課題として、この後、説明する資料で引用している内容となっております。この赤字を中心に説明をさせていただきます。

まず、本庁班からの意見ですが、「都民向けの広報、例えば相談窓口、差別偏見を防ぐ普及啓発などの準備を行う。」といった意見が出ました。

それから次に、医師会クリニック班ですが、「患者へ来院前に問い合わせるようアナウンスしておく。」「PPEについて医療措置協定どおりに行えるのか、手に入るのかを確認する。」などの意見が出ました。

次に、病院班ですが、「検査体制、感染対策物品の在庫確認、発熱患者のトリアージ、診療に当たってのゾーニング、人的資源の確保などの確認が必要。院内周知、感染対策の確認、PPEの指導、有症状の職員の申告、職員のメンタルヘルスなど院内の体制確認が必要。」などの意見が出ました。

スライドの6をご覧ください。

保健所班ですが、「PPE着脱、積極的疫学調査、アイソレーターの使用方法等に慣れていなければならない。」などの意見が出ました。

市町村班の一番下ですが、「市民からの問合せについて症状がある場合の対応、受入機関の確認等を事前に情報収集した上で進めていくことが重要。」などの意見が出ました。

スライドの7をご覧ください。

検討課題についての事後アンケートです。

赤字になっている部分、市町村班の方からですが、「情報の流れが不明で市民への周知範囲が分からなかった。」といったご意見をいただきました。

スライドの8をご覧ください。

こちらは、後半の情報伝達訓練のシナリオの概要です。

新型SARS発生中のN国から帰国したA氏が、帰国後数日して発熱し、徒歩でクリニックを受診。クリニックは新型SARSの可能性を考え保健所に連絡し、立川病院に搬送し検体を採取。新型SARSが確定し、翌日、クリニックとスポーツ施設で積極的疫学調査を実施するところまでを想定していました。

当日は時間の関係で、最後の疫学調査の事前調整で訓練終了とさせていただきました。

スライドの9をご覧ください。

情報伝達訓練における各班の発表です。

本庁班からは、「情報共有の難しさを感じた。」「それぞれの機関で把握している情報をどこまで、どのタイミングで発信するか慎重に判断する必要がある。」などの意見が出ました。

医師会クリニック班からは、「保健所とホットライン、スプレッドシートのようなものを設置してほしい。」「代表電話は絶対つながらない。」などの意見が出ました。

病院班からは、二つ目にあるように、「様々な人たちが動いている大変な状況だということ、どのように動いているのかということを知る機会になった。」などの意見が出ました。

保健所班からは、二つ目にあるように、「いろいろな情報が入ってくる中で、保健所の中の意思決定に時間がかかる。」などの意見が出ました。

スライドの 10 をご覧ください。

市町村班からは、「WEB会議、Google スプレッドシート、チャット機能等を使い、保健所との連絡体制が取れるとよい。」などの意見が出ました。

スライドの 11 をご覧ください。

訓練後、立川病院の竹内委員から患者受入訓練の映像に沿って解説をいただきました。その後、災害医療センターの浅利委員から赤字部分ですが、冷静な行動の大切さ、地域や関係医療機関と迅速に連携することで感染拡大を防ぐということを体感できたのではないかなどといった講評をいただきました。

スライドの 12 をご覧ください。

情報伝達訓練の事後アンケートです。

赤字を中心にご紹介しますが、市役所班から先ほどと同じようなご意見ですが、「情報の流れが不明で、市民への周知範囲が分からなかった。」「新興感染症が起きたらまた混乱すると感じた。」「保健所等が初動対応を行う中、市に情報が入ってこない理由を体験できた。冷静に都のプレスリリースを待つということも必要。ただし、市にもう少し早く情報が入っていれば施設の閉鎖等の対応を迅速にできたのではないか。」といった意見をいただきました。

スライド 13 をご覧ください。

次回訓練への意見としては、「より多くの機関の参加を得たほうがよい。」といった意見や、「同じような形式の訓練がよい。」といったご意見をいただきました。

来年度に向けましては、多くの方に見学していただけるよう、訓練映像の共有についても検討していきたいと考えております。

スライドの 14 をご覧ください。

新興感染症対策に関するご意見です。

赤字ですが、市役所班から「濃厚接触者への連絡対応の役割が、保健所なのか、市役所なのか、調整が必要。」、医師会クリニック班から「医療措置協定がどのように機能するか知りたい。」、複数の方から「感染初期の連絡体制や圏域内の情報共有がリアルタイムに分かるとよい。WEBなどで保健所との情報を共有する仕組みが必要。」などのご意見をいただきました。

また、赤字にはしていませんが、「感染症発生時に他の機関がどのような動きをするのかが分かった。多くの関係者に動きを知ってもらったほうがよい。」といったご意見も複数いただいております。

次に、資料の 5 をご覧ください。

こちらは、訓練当日の概要を記事のように文章で簡潔にまとめたものです。

文章の下や次のページには、写真や当日作成した情報連絡シートの抜粋もつけております。

内容につきましては、先ほどのご説明と重複しますので省略をさせていただきます。

なお、この資料を用いて、2月28日に、保健所主催で開催した北多摩西部地域保健医療協議会 保健福祉部会・生活衛生部会・地域医療システム化推進部会で説明をさせ

ていただいたところでは。

当日、委員の中から、訓練にお越しになった災害医療センターの伊藤副院長から「緊迫感のあるシミュレーションができた。コロナ禍では見えていなかった各部署の動きがよく分かった。今後も参加者を変えて継続してほしい。」といったご意見をいただきました。

また、当協議会の委員で訓練にもプレイヤーとして参加していただいた東大和市歯科医師会の今井会長からは、「関係機関がどのようなシステムで新興感染症の対応しているのか分かった。関係機関が新興感染症に対応するシステムをどのように構築しているかを知ってもらうことが有意義。」といったご意見をいただきました。

説明は以上です。

【長嶺部会長】 ありがとうございます。

それではここまでの議事、ア、実践型訓練状況まとめにつきまして、ご質問やご意見があれば、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

よろしいですか。

先に進めさせていただきます。

次に、イ、実践型訓練の検証について事務局から説明をお願いいたします。

【角田市町村連携課長】 それでは資料6に沿ってご説明いたします。

訓練で見えた課題とそれに対する今後の方向性の案の資料としております。

左側の列ですが、訓練実施前に検証のポイントとして提示していた3点を並べております。

その右の列ですが、先ほどご紹介した意見をそれぞれの検証のポイントに合わせて分類を、並び替えをしております。

その右の列は、振り分けた意見から今後の課題を抽出したものです。

さらにその右、一番右の列ですが、今後の方向性の事務局案としております。

今後の方向性につきましては、吹き出しに記載のとおり、二重丸で当圏域において取り組むもの。黒い丸でこの部会の親会である協議会で検討するもの。それから四角で、都の検討状況を踏まえて実施するものに区分しております。

上から説明をさせていただきます。

関係機関と情報連絡の一つ目、一番上の左から二つ目の列の一番上の四角ですが、情報連絡のタイミング、流れなどについての意見をこの中にまとめております。

その右、今後の課題としましては、市関係機関への情報提供の内容とタイミングは、事前に整理が必要としました。

その右、今後の方向性ですが、東京都感染症対策連携協議会で、保健所と市の役割分担を整理し、市町村への情報提供の在り方を検討するとしております。

こちらにつきましては、都の予防計画や各保健所の健康危機対処計画に記載している内容で、都の感染症対策部が所管しているこの協議会での協議を通じて、市町村などとの役割分担を整理し、情報共有の在り方などについて検討することとなっております。

二つ目、黒丸ですが、情報連絡体制を整備し、対処計画資料編に追加するとしております。

こちらにつきましては、保健所から各機関の連絡手段、連絡者、連絡相手などについて整理をしていきたいと考えております。

三つ目の黒丸ですが、感染症発生早期のフロー図を対処計画資料編に追加する。

こちらについても、フロー図を対処計画に資料編として追加していく予定です。

次に、関係機関と情報連絡の二つ目、関係機関との情報共有の手段等についてのご意見をまとめました。

その右の課題ですが、関係機関との情報共有の場、効率的な情報連絡ツールが必要としました。

今後の方向性は、情報連絡体制を整理し、対処計画資料編に追加するを再掲しております。

二つ目の二重丸ですが、訓練でも使用しましたGoogleスプレッドシートでの情報連絡を試行するとしております。

次に、関係機関との情報連絡の三つ目、市民向けの広報等についてのご意見をまとめました。

課題については、市民に対する適時適切な周知、広報が必要。それから市においても基本的な感染症対応ができるようにすることが必要としました。

今後の方向性は、ホームページ、広報誌等で感染症に関する普及啓発を実施する。それから、市町村向けの感染症対応に関する研修の実施や市町村も参加する感染症対応訓練等を実施するとしております。

次に、各機関、初動対応のところですが、感染症が流行する前に確認する事項に関する意見をまとめました。

課題としては、初期対応に備えた準備が必要。患者への受診に関する事前案内が必要。医療措置協定の機能を把握することが必要としました。

今後の方向性は、訓練や会議等の機会を通じて各機関のBCPやマニュアル等における初期対応の記載の見直しを促していく。

それから定期的な会議等の機会を通じて医療措置協定等に関する情報を共有するとしております。

次に、感染症業務の一つ目、感染症に対応した準備に関するご意見をまとめました。

課題としては、感染症に関する知識の普及啓発や人材育成が必要としました。

今後の方向性は、市町村、医療機関、大学職員、IHETA等、外部の専門職の応援者リストを作成する。

市町村、関係機関向けの感染症対応に関する研修を実施するとしております。

次に、感染症業務の二つ目、感染症の具体的業務に関するご意見をまとめました。

ここでは、特に拠点となる保健所の業務についてのご意見をまとめていまして、課題としては、物品や業務手順の確認、定期的な訓練が必要としました。

今後の方向性は、保健所内の役割分担に基づく感染症業務、所内訓練や対策本部立ち

上げ訓練等を定期的に実践するとしました。

最後に、保健所と市役所との役割分担に関するご意見です。

課題としては、ご意見の裏返しになってしまいますが、保健所と市の役割分担の整理が必要としました。

今後の方向性ですが、一つ目は再掲していますが、東京都感染症対策連携協議会で、保健所と市の役割分担を整理し、市町村への情報提供の在り方を検討するとしています。

二つ目の黒丸ですが、フェーズごとに役割分担に基づいた実践的訓練を毎年実施し、対処計画や各市マニュアル等を更新していくとしました。

説明は以上です。

【長嶺部会長】 それでは、ここまでの議事、実践型訓練についてご質問やご意見、もしあればどうでしょうか。

平野先生、お願いいたします。

【平野委員】 平野でございます。

3点ありまして、1点目が、今回の訓練以外から所内とかで意見は出なかったかということ。

2点目が、この対処計画資料編とありますけど、どのぐらいのボリュームになるのかという、今、イメージがついてないので教えていただきたいということ。

3点目が、東京都感染症対策連携協議会で検討するものが幾つかあるのか。結構、この情報提供の在り方とか、役割分担、大事なことがあると思うのですが、そういったどのように検討されて、ロードマップといいますか、いつまでに何がというものを決めていれば教えていただきたいと思っています。

【角田市町村連携課長】 ありがとうございます。

1点目の所内からの意見についてですが、おおむね今回の訓練、保健所としても新たな取組でしたので、中でも全体を把握しているものがいなかったのもので、そういったものが把握できたことや、定期的を実施していくことが重要だという意見が出ております。

それから、対処計画のボリュームですが、本日、配付している資料の後ほどご説明もしますが、資料7-1で対処計画の新旧対照表をつけておりまして、この資料の3ページ目に、今回、資料編を追加するというので、資料編の目次のようなものでつけております。

現時点で案として資料編につけるものは、この資料編1から資料編10となっております。おおむね表のような資料になりますので、それぞれの資料のボリュームは体制表ですとか、体制図などは表や図なのでページ数はあまりないですが、資料編9の、例えば事業継続計画とかは計画になっていますので、ある程度、ページ数もあるものとなっております。

それから、連携協議会の今後のスケジュールですが、この市町村との役割分担のところにつきましては、感染症対策部の説明では、今のところ、今後検討していきますと

ということで、これから検討を始めるということで、まだ具体的にいつまでというのは、まだ提示されてない状況でございます。

【平野委員】 ありがとうございます。

【長嶺部会長】 はい、ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

この実践型訓練についてという全体でも構いませんけれども、どうでしょう。

もしご意見等ないようであれば、感想でも構いませんので、せっかく皆様方ご参加いただきましたので、お聞かせいただいてもよろしいでしょうか。

それでは、大変恐縮ですけど、竹内委員から順番によろしくお願いいたします。

【竹内委員】 竹内です。

実際に、今回、訓練に参加させていただき、訓練のための計画というところで、いろいろな場面で携わらせていただいて、今までこういうことを1回もやったことがない、経験したことがないわけではないのですが、ここで久しぶりに保健所と、地域の行政の部分だったり、いろいろな医療機関やクリニックと、いろいろな人がどんな動きをしているか経験できました。今日の報告でも何回も出てきたのですが、コロナのときは、みんな自分のところで精いっぱい、周りがどんな動きをしているかも分からなかったのですごく混乱もしていましたし、電話で穏やかな話合いが全くできずに、みんなが分からないから、いつもかりかりして、電話のやり取りをしていたというような状況がありました。どこもかしこも大変だったというのが、あの訓練を通して多分皆さん感じたのではないのでしょうか。こういう状況があったから、流れが分からなかったからというところでは、訓練の中でそれぞれのところの役割、どんな動きをしているのかというのが分かったのが、すごく自分にも勉強になりましたし、皆さんが体験できたことでよかったと思っております。以上です。

【浅利委員】 災害医療センター、浅利です。

今回の会議、竹内委員も先ほどおっしゃられたとおり、今まで全くやってきたことがないわけではなかったのですけれども、こうやってコロナの一番大変な時期を振り返って、今後、こういうことが起こったときにどのように動けばいいかということが、再度、振り返ることができてよかったです。あと、あの当時、どのような背景があったのかということが理解できたのにプラスアルファして、新しいツールとしてGoogle スプレッドシートを活用したりとか、初めからうまくいくということはないわけで、実際にやってみて、こういう改善が必要だということを打合せの段階でも大分こういうふうなルールを使ってやりましょうということは言っていましたが、実際に運用してみたら、こうしたほうがよかったねとかということもあって、課題を見いだせてよかったと思っています。

また、今、医療措置協定が結ばれていますが、以前、新型インフルエンザが流行したときも、行政からも支援物資など配給されていたはずなのですが、今回のコロナのときに、それがうまく使えなかったりとか、老朽化してしまったり、あるにはあるけど使えなかったりということがあって、平時からの備えというのが大切ですし、物品が不

足したときにどのようにやるかということ、今後、できていったらいいと思いますし、その医療措置協定を含めて、特に1種、2種、取っているところを中心に行っていくと思うのですが、その役割をそれぞれの、当院も含めてですが、自覚してどう動くのかということ、それぞれの部署に持ち帰ってできるような訓練に今回はなったと思いますし、今後もそのような訓練が引き続いてきたらいいと思っています。

【持田委員】 武蔵村山市の健康推進課長で持田と申します。よろしくお願いいたします。

本日、振り返りということで、こういった今後の課題ですとか、資料を保健所でまとめていただいて、非常に分かりやすくまとめられているということで、今後、これを生かしていけるといいと思っています。

私も今回、初めて感染症関係の訓練ということで参加をさせていただきました、いろいろな病院ですとか、東京都保健所、各医療機関の動き、流れというものが確認できました。非常に参加してよかったと改めて感じております。

その中で、課題というところも幾つか出てきているということでございますので、今後、保健所と市町村の役割、そういったところが今後のその協議会の中で、また、整理をされて、確認を検討していくということですので、今後の動きをまた見ていきたいと思っています。

そういった内容が、この保健所の対処計画、その資料編に追加をされていくということでございますので、その内容については、市町村としての意見等も出させていただきながら、東京都保健所とみんなが共有できる内容に持っていけると、より良いと感じております。

それと、ここにも書いてありますけれども、本当に感染が拡大したときには、市町村と保健所との連携、連絡体制がなかなかうまくいなくて途絶えてしまったということもすごく大きな課題として捉えておりますので、WEB対応ですとか、チャット関係、そういった中で連絡体制の強化が、今後、図れていけるとすごく良いと思っています。

この感染症訓練、来年度以降も毎年実施をしていくということでございますので、今年度は課長職が参加しましたが、来年度以降、係長職の職員も参加をして、より多くの市町村の職員も、この感染症訓練に関わって、いろんな部分を見ていけると、市の中でもより体制の強化を進めていくことができると考えておりますので、ぜひ、ご検討いただければと思います。以上でございます。

【山本委員】 武蔵村山病院感染管理室の山本と申します。

今回の研修もプレイヤーとして参加させていただいて、全体の流れがやっぱりいろいろな施設がどういうことをやっているかというのが見えて、とてもよかったかなと思います。

今回、資料6でも、各施設からの意見をまとめた要件の抽出と、課題の洗い出しができたのは、とてもよかったと思いますので、これを次年度以降、どう解決していくか、ツールの開発も進めてやっていければいいと思います。

やっぱりこの研修、今回、参加した方と、見学で来た方はたくさんいらっしゃったかと思うのですが、それを本当にいろんな方に知ってもらおうということが結構大事だと思います。これも来年度の検討だと思いますが、訓練を実際、どうリアルタイムにいろんな人に見てもらおうための配信だったりとか、あとは参加型以外の方法で、動画でこの訓練の流れとか、全体像をいつでも見られるようにして、研修の中に組み込んでYouTube配信等を用いて、そういうものができるようにできたらと思います。本当に1人でも多くの人と、それに感染対策に関わる人だけではなく、病院長であったり、診療所の先生方とか、やっぱり起こったときに、一步引いてしまうところがあるので、初動がみんな協力的に、みんなが動ければ多分何とかなるものだと思っているので、その理解を得られるために、病院長だったり、管理者という方々にこういう流れを理解していただいて、自分たちがしなければいけないことというのを自発的に考えていただくことも必要かと思いますので、そういう方々に伝えられるような何かツールになればいいと思ったところはあります。

【榎野委員】 立川相互病院の榎野です。

私は大がかりな訓練というのに初めて参加いたしまして、すごくよかったなと思っています。

この訓練を受けた後に、どんな訓練をしたかと、ほかの地域の方とお話する機会があったのですが、うちではこんなことをやりましたと、自信を持って、すばらしいことをやりましたよというご紹介ができました。初回であったけれども、すごくすばらしかったので、またさらに課題と方向性がもう見えていますので、来年度、もっとすばらしいものになっていくのではないかと思います。

しっかり協力してやっていきたいと思っています。以上です。

【平野委員】 平野でございます。

私、こういった訓練に参加したのは初めてでありましたけれども、意見が抽出されて、課題と方向性としてまとめてくださって、もっと意見を出せばよかったと今さらながらに思っております。

今後も繰り返し訓練をしていただくということなのですが、やっぱり傳承されていく、皆さん、異動されたりすると思いますので、これが今後、続いていくということをお願いしております。ありがとうございました。

【長嶺部会長】 どうもありがとうございます。

WEB参加の国立市の加藤委員、もしご意見いただければありがたいと思いますが、聞こえてらっしゃいますか。

【加藤委員】 はい、聞こえています。こちらの声は入っていますでしょうか。

私、11月の訓練には参加していないのですが、今、振り返りを見ていて感じたこととして、先日、災害医療活動の訓練がありまして、そのときにもスプレッドシートが大変有用ではないかという話が出ましたので、スプレッドシートを試していきたいと感じたところです。

あと、保健所との連携だったり情報の流れ方、新型コロナウイルス感染症が始まっ

たときは、とにかく報道が先行していて、報道の真偽を確認するのに厚生労働省のホームページを見て、保健所とどうするというような協議だったり、連絡だったりというところ、初動のときにあんまりしていなかったという記憶がありますので、今後、こういった訓練を踏まえて考えていけたらと思います。またどうぞよろしくお願いたします。

【長嶺部会長】 どうもありがとうございます。

本当に、あのときはまだ一瞬にして集まるようなオンラインツールもなかったのですが、そういう意味でも大変だったのですが、今、こうやって我々がお話できるという関係性をずっと続けていけば、いつ、次が来るのか分からないのですけれども、あのときよりは的確にできると思っております。

私自身も訓練に参加いたしましたけれども、特に最初は患者さん中心で考えていくので、市の方々との連携というのも、もう少し考えるべきだったと思えました。そんなところも反省しながら次回につなげていけるのではないかと考えて参加していた次第でございます。

皆様、ありがとうございます。

それでは、次に進めてまいります。

次第3（2）健康危機管理対処計画改定案について事務局から説明をお願いいたします。

【角田市町村連携課長】 それでは資料7-1をご覧ください。

昨年度末に策定した多摩立川保健所の健康危機対処計画の改定案の新旧対照表です。

3ページをご覧ください。

先ほどご覧いただいたページになりますが、資料編を追加するというので、赤字で追加をしております。この後に青字も出てきますが、青字は保健所の中の分担に関する記載の追加を表しております、その他の修正は赤字で表しております。

なお、この資料編の目次ですが、資料編はここに記載もしておりますが、保健所の内部情報がほとんどであるため、原則、保健所外部秘とする資料と予定しております。

ただし、感染症発生時など必要に応じて、必要な関係機関と共有する必要がある場合は、共有していくこともあり得ると思っております。

4ページをご覧ください。

こちらは上の部分が赤字にしてありますが、基本指針の告示番号の追加で、体裁的な修正となっております。

ページ飛びまして、6ページをご覧ください。

中ほどの赤字ですが、3、流行初期以降の期間の目安の追加をしております。

それから、その下の青字部分ですけども、保健所の中の分担の記載、感染症発生時の各班が保健所内の各班が担う役割の概念について追記、追加しております。

7ページをご覧ください。

こちら、最初に出てくる赤字部分、対策本部会議についてですが、所内の体制の話にはなりますが、対策本部は先ほど青字で見ていただいた各班を含めた組織を指してお

りますので、所長を本部長として管理職が集まり意思決定をする対策本部会議と対策本部を区別するため修正をしました。

重要な決定は、この対策本部会議で決定していくこととしております。

その他は、細かな修正と青字の追加、それからこの本文に係る資料編を赤字で追加しております。

8 ページをご覧ください。

8 ページも同様の追加等を行っております。

9 ページをご覧ください。

下のほうの赤字ですけども、職員が受講する研修例の部分です。

こちらは研修例に保健所内向けの研修等を活用した内容を追加しております。

10 ページをご覧ください。

(ウ) 実践型訓練の部分ですが、所内体制の構築を追加し、訓練の例に所内役割分担に基づく訓練や所内対策本部立ち上げ訓練を追加しました。

11 ページをご覧ください。

こちら、初めに出てくる赤字部分ですが、新興感染症発生時の対応として職員の体調管理に関する記載を追加しました。

次に、12 ページをご覧ください。

一番下の 13 ページにかけて続く部分ですが、タブレットなどの物品について、平時から定期的に点検するとともに、必要となった場合の調達方法を検討していくことを追加しました。

14 ページをご覧ください。

中段辺りの事務局班という赤字部分ですが、相談マニュアルの更新の担当を事務局班に変更しております。

また、次の赤字ですが、医療措置協定の、協定の記載に検査機関を追加しております。

その次ですが、第二種協定指定医療機関の記載について、流行初期対応の有無。

こちらは非公表情報ではありますが、保健所の中としては把握しておく必要がありますので、本庁から提供を受けて整理をしておくこととしました。

これ以降は、細かな修正や担当の追加ですので、説明は省略させていただきます。

資料 7-2 をご覧ください。

資料編は原則、所内限りでご説明したところですが、本日の当部会では資料の一部をご説明させていただきます。

資料 7-2 は、情報共有方法の資料で、WEB 会議やメーリングリスト、それから Google スプレッドシート、連絡会等を情報共有方法として並べておりまして、その右の列に、それぞれの参加機関の想定を記載しております。

その右の活用のタイミング頻度、内容等の部分ですが、例えば一番上の WEB 会議のところでは、保健所の本部立ち上げ後、定期的に開催を想定していますが、そのときの状況に応じて判断していくこととなると考えております。

また、その二つ下の Google スプレッドシートのところですが、今年度の訓練も

踏まえて追加したところですが、急を要さない質問や定期的な報告などに活用することを想定しております。

その下の連絡会ですが、定期的にそれぞれ開催していく頻度を記載しております。

次に、資料7-3をご覧ください。

こちらは資料6でもご紹介したところですが、感染症発生早期における業務フロー図で、こちらは「東京都感染症マニュアル2018」から引用しております。

情報のアップデートなどがあれば、こちらでも更新をしていきたいと思っております。説明は以上です。

【長嶺部会長】 はい、ありがとうございます。

ここまでの議事、(2)健康危機管理対処計画の改定(案)についてのご質問、ご意見などいかがでございましょうか。

よろしいでしょうか。

もし何かあれば後ほどまた賜れるかと思えます。

それでは、ひとまず次にまいります。

次に、次第3(3)令和7年度感染症対応実践型訓練(案)について事務局からお願いいたします。

【角田市町村連携課長】 それでは資料8をご覧ください。

令和7年度の感染症対応実践型訓練の案です。

目的は記載のとおり、関係機関との連携強化を図り、地域全体の感染症対応力のさらなる向上を目指すため、令和6年度に実施した訓練や健康危機対処計画の改定を踏まえた訓練を実施するとしています。

時期は、今年度と同様の11月頃。その下の概要ですが、今年度の訓練で想定した発生早期からフェーズを進め、流行初期、発生から1か月程度を目途とした時期を想定し、シミュレーション訓練を実施したいと考えています。

フェーズが進むことで参加機関が増えたり、役割が変化することを想定しております。

訓練の実施方法は、基本的には今年度のやり方を踏襲しつつ、今年度の訓練を踏まえ、改善などしながら検討していきたいと考えています。

会場は、保健所内で最も広いスペースがこの講堂になるため、現地で参加できる人数には限りがありますが、より多くの方が参加できるやり方や会場に来なくても訓練を見学できる映像の共有についても検討していきたいと考えています。

訓練の具体的な案については、来年度の当部会で提示し、ご意見をいただきたいと思っております。

下の「例)」と記載のある部分ですが、流行初期の想定される対応の例を記載しております。

例えば所内体制の確認、感染症サーベイランスシステム入力、患者情報の管理、市町村への情報提供などを記載しております。説明は以上です。

【長嶺部会長】 はい、ありがとうございます。

それでは、こちら(3)令和7年度感染症対応実践型訓練(案)についてのご質問やご

意見、いかがでしょうか。

フェーズが次に進んだときの時期を想定してございますが、どうでしょうか。

なかなか訓練というと、いつも直後ばかりだったので、私も必要だと思いつつ、今までしっかりこの直後でないところはやったことがなくて、皆様方のお力もまたお借りしないとイケないな、などと思っているところでございます。

大丈夫ですか。

では、この訓練案につきましては、今後にご相談をさせていただくと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは次に、事務局からのご説明をお願いします。

【角田市町村連携課長】 それでは次第3（4）健康危機管理（感染症）訓練等部会等の予定についてご説明します。

資料9をご覧ください。

今後のスケジュールの案です。

上段が会議関係、中段が訓練や研修、下段が対処計画のスケジュールです。

本日のご意見を踏まえ、上段の6月頃、親会に当たる健康危機管理対策協議会で、本日のご報告をしていく予定です。

中段ですが、並行して、来年度の訓練のシナリオ案の作成や関係機関との調整などを進めていきます。

また、紫色の枠の部分ですが、嘔吐物処理訓練や防護服着脱訓練も表の時期にそれぞれ実施していく予定としております。

上段に戻っていただき、9月頃、この部会で訓練の案などを提示し、ご意見をいただきたいと思っております。

中段ですが、それを踏まえてシナリオを確定させ、11月頃に訓練を実施予定です。

今年度と同様に、訓練を受けて実績をまとめ、下段のとおり、並行して対処計画の見直し案も作成していく予定です。

上段の2月頃、また部会を開催し、本日と同様の議題でご意見をいただき、また令和8年度につなげていくというサイクルを考えております。説明は以上です。

【長嶺部会長】 それでは、ここまでの議事、（4）健康危機管理（感染症）訓練等部会等の予定についてご説明いたしました。ご質問やご意見などいかがでしょうか。

また、11月に予定してございますので、こうしたらいい、ああしたらいいということは折に触れて、ちょっと覚えておいていただいて、また取りまとめていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは最後に、委員の皆様方から本日の会議全体を通してのご意見、ご質問、また、その他、情報提供などありましたらご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

WEBの皆様方もよろしいでしょうか。

最近、時代は災害対策と感染症対策という時代になってしまっておりまして、昨日も3月11日でしたけれども、災害が起きれば人が集まって、そうすれば当然感染症が起るというような、もう二つをセットに考えておかないと追いつかない時代になって

いるということ、私自身はいつも思っております。

災害の訓練等もよく参加させていただいたり、職員から報告を受けたりしますが、話がずれますけれども、マンホールトイレなど設置していただいたときに、手洗いはどうなっているのか、そこまではなかなかセットで設置されていなかったりとかありませんよね。

人が集まれば感染症って必ず起きるので、コロナみたいな新たな感染症が起きることもそうですが、自然災害以外にも、設備の問題だとか、いろんなタイプの災害が起きるようになっていて、いつ、どこで、この災害と感染症がセットになっていくのか分からない時代だと思いながら最近のニュースを見ているところでございます。

ぜひ、ここにいらっしゃる皆様方、本当にいろんな意味で先頭に立っておられると思いますので、今までの感染症の見方も必要だと思うのですが、多方面から見た感染症の在り方というのを少し気にしながら、来年度のこういったところで現場のご様子等も教えていただければありがたいと、いつも感じて仕事をしているところでございます。

よろしいですか。

それでは、以上をもちまして、本日の議事を終了させていただきます。

委員の皆様方におかれましては、議事の進行にご協力を賜り、そしてこの訓練に際しては、本当に細かなご指導もいただき、ご協力賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

今年度に引き続きまして、来年度もぜひ、このよりよい顔の見える関係を大切に、大切にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局にマイクを返します。

【角田市町村連携課長】 皆様、本日はお忙しい中ご参加いただき、ご出席いただきありがとうございました。本日の内容につきまして、お気づきの点ございましたら、配付しておりますご意見シートにご記入いただき、3月18日(火曜日)までにメール等で送付していただけるようお願いいたします。

では、これをもちまして、第2回北多摩西部健康危機管理対策協議会健康危機管理(感染症)訓練等部会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

午後2時25分 閉会